

1. 評価報告概要表

作成日 2009年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200320
法人名	株式会社ヴィラージュ
事業所名	グループホーム上白井の家
所在地	渋川市上白井2578-11 (電話) 0279-20-2089

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 2,800円/月 寝具利用料 2,200円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日1,000円		

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	3名	要支援2		1名	
年齢	平均 87歳	最低	85歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こすもすクリニック、ほたか病院、船岡歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は利根川の右岸国道17号の近くに面しているが、右側に広大な畑があり静かな田園風景の中に立地している。職員は入居者一人ひとりの思いを大切に、入居者を尊重した姿勢で支援に取り組んでいる。天気の良い時はベランダで日光浴をしたり、年間計画を立案し日頃行けない場所までドライブに行くこともある。また、系列のグループホームとの食事会や隣接している小規模多機能事業所の利用者との交流が行われている。入居者の笑顔が見られない時には出来るだけかわるようにして、入居者が安心した生活が送れるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価に関する資料は情報を共有するために全職員に配布し、家族等への報告や同業者との交流を通じた向上等について職員会議で検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員を3グループに分けて班毎に評価し、施設長がまとめている。特に、改善に向けた計画内容を明確にして取り組んでいる。また、3ヶ月ごとに家族へお便りを出したり、アンケートを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は子持支所の方も参加して、定期的に行なっている。6月開催の会議では、地域の方々に近況報告をし意見交換を行なっている。地域の方に認知症事業所の理解が深まり、声をかけてくれるようになるなど事業所運営も円滑になっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員の異動は、定期的に関連施設内でローテーションを組んで行っている。グループホームを経験した人を、本人が納得した上で異動している。職員の異動については、入居者や家族に不安にならないよう趣旨を伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方との交流を大切に、普段から積極的に声をかけて、ホーム内のお祭りや踊りなどの行事の際には参加して頂いている。また、祭りや地域活動に参加し交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続支援、事業所と地域の間を繋ぐための理念をつくりあげている。理念は職員全員でつくり、毎朝礼時に復唱し業務に入っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時に理念を復唱しており、介護職として特に意識している事は、家族の代わりとして入居者の思いを汲み取り誇りを持って日々介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人に野菜作りを教えてもらうなど、普段から積極的に声をかけて交流を持っている。近隣は2軒しかないが地域を大切にし、避難訓練時には声をかけて一緒に実施したり、行事にはボランティアを招いたりしている。また、祭りや地域活動に参加し交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	班ごとに割り振りして職員は自己評価を行い、施設長がまとめている。外部評価の結果から改善シートを作成し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行われており、特にこの6月の会議では地域の方に声をかけ、納涼祭などへの参加を呼びかけた。会議の中で取り組み状況を報告し、サービス向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	子持支所に、2ヶ月に1回位介護保険更新申請などで出向き、情報交換をしている。担当者との連絡も円滑であり、サービス向上につながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、日常の状況を伝えている。また、入居者の情報は、おたよりで知らせている。面会の少ない家族に対しては注意しており、職員の異動があったときには手紙で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に、意見を確認している。また、意見箱を用意している。アンケートも実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が発生するときは、入居者に不安のないよう言い伝え、家族にもあらかじめ事前に説明したり、手紙で連絡し了解を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列病院の年間研修計画に基づき、毎月2回同じ研修会を開催しており全員が受講できるよう配慮されている。また、接遇研修を行い、介護のなかで役立っている。費用は法人内でも出し受講している。外部研修にも参加し、復命書を回覧して情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加盟しており、相互研修の受け入れが可能である。系列のグループホームとの交換研修や法人内研修センターでは外部講師を招いたり、事業所職員が講師となるなど研修の機会が多くある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は見学していただき、体験入居も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビのニュースを一緒に聞きながら共感や同調したり、昔話をしながら相手の気持ちを引き出す工夫をしている。日々の生活の中で感謝の気持ちを伝えられ、仕事に誇りが持て、入居者から学ぶ事が多く支えられていると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが心を開いて話せるように、職員は入居者の思いや意向の把握に努めている。本人が伝えられない時は、本人に代わって「こういうことですか」と伝えて確認し把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族の出席はむずかしいが、面会時に意向を聞き、本人・家族と話し合いながらプランを立て実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時は、適時ケアカンファレンスを行っている。ケアマネージャーは週1回と必要時に連絡する体制で出勤している。モニタリングを行い、それに添って家族と話し合い入居者に合わせた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の思いを大切に職員間で話し合い、入居者にあった方法で支援している。あまり来訪できない家族に対しては電話で連絡している。また、帰宅願望のある入居者には家族の協力を得て外泊するなど柔軟な対応を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望するこれまでのかかりつけ医への受診も可能だが、入居時に説明し了解が得られれば系列のホーム協力医の受診が行われている。受診には家族が送迎や付き添いをしてくれる入居者もいるが、困難な入居者には職員が送迎したり付き添ったりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、医療行為が必要になるので、病状によって医師と相談して判断をしている。観察については、職員に注意事項を伝えて、家族にも情報提供しながら情報を共有している。		
重度化					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の意見を尊重して、個人の名前を公表する時は許可を得ている。また、資料類の管理は、人の目に触れないよう事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、仕事を中断しても入居者を優先に考えて行動している。訴えが多くても入居者と向き合った支援を実施している。また、夜間でも同様の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者に声をかけ協力してもらっている。声をかけても気分の乗らない人には強制はしていない。献立は希望を確認し時には刺身やお寿司を提供したり、季節に応じて夏には竹を割って流しそうめんを企画するなど趣向をこらしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回、時間は午後3時30分前後である。どうしても入らない人には時間をかけて、なだめたりしてタイミングを大切に援助している。時には、夜間に入浴する事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑に散歩に出かけ、菜園での野菜の収穫を楽しみにしている。食後のお膳運びや食堂の清掃、洗濯物たたみなどをしてもらい、その人らしい生活の支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間事業計画に沿って、四季折々の楽しめる計画を立案し実施している。天気の良い日にはドライブや外でお弁当を食べたり、ぶどう狩りやりんご狩りなどを実施している。外出時には写真撮影を行い、思い出づくりにも心がけている。大きなイベントの時はスタッフも多く配置し、入居者の安全を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全で平穏な生活の確保に、職員は普段から意識して行動している。決まった時間に外出してしまう人には、職員が意識して散歩に誘い気分転換を図っている。玄関にメロディのセンサーをつけ、施錠しないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、実施している。うち1回は夜間を想定し、職員全員が参加している。自分が勤務の際に災害が発生したらという思いで訓練に参加し、意識が向上している。地域の消防団の人にも運営推進会議でホーム内を確認してもらっている。スプリンクラー設置は1月の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員が考えて立案している。その日の早番が入居者に何が食べたいか好みを聞いて、翌日のメニューを考えている。系列の施設には管理栄養士が在籍しているが依頼していない。食事摂取量や水分摂取量はチェックし、水分は1日1000ml位を目安にしている。嚥下できない人はトロミ剤で調整し提供している。	○	栄養面を考慮しなければならない入居者の為にも、管理栄養士の指導を検討して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のダイルームは吹き抜けの天井で、窓からの光が射し込み外の様子を感じられる。中庭や玄関には、季節の植物や花が置かれている。食堂の食器を洗う音や食材をきざむ音、ご飯の炊ける臭いを感じる事もでき、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の思いを大切に調度品は自由であり、仏壇を置いている方もいる。家族の面会が少ない方は写真を室内に飾ったり、季節感のある貼り絵や絵を飾ったりして家庭に近い環境づくりを支援している。入居者が持参した調度品や品物は本人や家族と相談して配置し、家庭により近い環境にしている。また、部屋の入り口に目印を置くなどわかる工夫をしている。		